



飯豊町に伝わる民話 ●●●●●

のねむしらかわせき よし乃が眠る白川の堰

いいでまちまつばら しらかわ ごふちはげ よ ふち
飯豊町松原を流れる白川に「五淵禿」と呼ばれている大きな淵(川の

水がよどんだ深い所)があります。

その下流に添川地区の用水が

流れる「吉野堰」という農業用

水路がありました。この堰には、

こんな言い伝えがあります。

よしのぜき しらかわ せきと
吉野堰は白川を堰止めて水

を取り入れていたので、洪水のたびに堰止めが流され、そのたびにたく
さんの人とお金をかけて作り直されていました。

ある年のこと、何度作り直しても堰が流され水を上げることが出来な
いため、村人たちは困り果てておりました。

そんなとき、添川村の堰守(堰を管理して守っている人)をしている
さばらきちしろう やと の
佐原吉四郎の家に雇われていた「よし乃」という、それはきれいな娘が
おりました。よし乃は、多くの女たちと一緒に堰を直すために集まる人
たちにご飯を作る仕事をしておりました。このよし乃が炊いた、ご飯が
すばらしく美味しく、みんな不思議がっていたそんなある日、仲間の女た
ちがよし乃の釜に何か美味しく炊ける秘密があるに違いないと思い、よ
し乃が場所を離れたとき、そっと釜のふたを開けてみたところ、釜の底
に大きな「マムシの皮」が敷いてあったので、みんなびっくりして大騒ぎ



吉野堰の取り入れ口があった五淵禿

の しか
となり、よし乃はきついお叱りをうけたのでした。

せきと むずか
堰止めの工事が難しくなかなか進まないある日のことでした。村人か

らは「だれか人柱でもしなければ」との話しがははじめ、人々からいじ

められていた、よし乃が「わたくしが人柱になりましょう」とその夜、龍が

住んでいるといわれる五淵禿に身を投げたのでした。その後はみるみる

仕事が進み、ようやく田植えを

行うことが出来ました。村人た

ちは人柱になったよし乃の身を

かわいそうに思い、その名をと

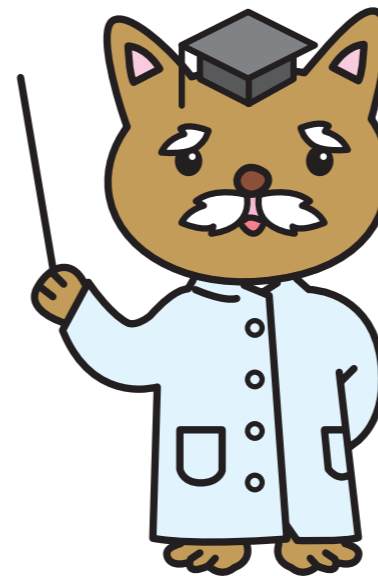
ってこの堰を「吉野堰」と呼ぶ

ようになったというお話です。



昔の吉野堰

人柱って何？



昔は悪いことは神様が怒ったことで
起こると信じられていたので、
食べ物や生きた人などを供えることで、
神様の怒りをおさめようとしてきました。
そのため、大きな橋や水路などが
壊れたりしないように生きた人を
そのまま中に埋めたと
言われております。

【参考文献 吉野堰史…吉野堰土地改良区】